



池田町内を巡り、写真を撮る都立芝商業高の生徒たち
24日、同町志津原の「ツリーピクニックアドベンチャー
い
けだ」

都立高生 池田が「教材」

夏合宿に2年生15人

都会の目線で池田の魅力発掘。夏合宿で池田町を訪れている東京都立芝商業高の生徒が24日、スマートフォンで町内を撮影しながら歩き、事前に考えた活性化案について町民らと話し合った。美しい自然やジビエ料理を満喫、気さくな町の人との交流を通し、町産食材を使った商品や町を盛り上げるイベントのアイデアを磨いた。

(中坪佑香)

町内歩き住民と交流

膨らむ活性化案

同校と町は、地域学習や活性化に取り組む「いけだキャンパス」事業の協定を昨年12月に締結、本年度から選択授業として取り組んでいる。町に根付いた生活や文化を「教科書」に、社会で役立つ知恵を学ぶのが狙い。2年生15人が4グループに分かれ、事前学習を重ねてきた。今回2泊3日の日程で初めて訪れ

た。この日は町内の指定ポイントで写真を撮る「フォトロゲイニング」などを行った。出会った町民との会話も楽しみながら、体験施設「ツリーピクニックアドベンチャーいけだ」や、足羽川溪流

に架かる「かざら橋」、能面美術館などを巡った。お昼にジビエ料理を味わった後、グループごとに町職員や観光施設スタッフ、農家らに話を聞き、商品やイベントのアイデアを練り上げた。最終25日は、商品開発

グループが考えた町産米を使ったピザやパンケーキの試食会や、杉本博文町長との意見交換会がある。アイデアは合宿後に練り直し、杉本町長が同校を訪問する今冬にプレゼンする。優秀な企画は、いけだ農村観光協会などが商品化や実現を視野に入れているという。

大場裕香さんは「東京と違って川の水が透き通っている。写真を撮りながら川沿いを歩くのが楽しかった」と笑顔。担当している商品開発について「米粉とトマトジャムのパンケーキを考えている。甘さを調節して商品化したい」と意気込んでいた。